

奥日光スノーシューハイク山行報告

【山行日】2021年2月14(日) 快晴

【集合】栃本市運動公園P AM 8:00

【費用】マイカー1台 : 1,900円

【メンバー】CL:鈴木ユ、 SL関、
安西、石澤、福島、

【コースタイム】栃本市運動公園 P8:00=湯元温泉

P9:15/9:40~金精道路 10:05~蓼ノ湖 10:20~

小峠 10:40~刈込湖 11:15/11:25~刈込湖1周~

刈込湖 11:55/12:35 ~ 小峠 13:00 ~ 蓼ノ湖

13:20/13:30~金精道路 14:00~石楠花平下降点

14:20~湯元温泉 P14:40/14:50=大谷 PA15:30=栃本市運動公園 P16:00

恒例の宿泊奥日光スノーシューハイクだったが、コロナの影響で宿泊山行は自粛となり日帰りのスノーシューハイクとなった。宿泊では8名いた参加者も、自粛ムードが強まり5名での山行とな



ってしまった。当初、戦場ヶ原から小田代ヶ原を周遊するコースを計画したが、前日ビジターセンターに雪の状況を確認し「雪が少ないのでスノーシューでは歩かないでほしい」と言われた。当日皆さんに雪が少ないので、湯元温泉から金精沢コースか刈込湖コースに変更したいと提案し、刈込湖コースを歩くことにした。日光宇都宮道路からイロハ坂を進み、戦場ヶ原を通るが雪が少なくスノーシューには不向きと納得した。湯元温泉の駐車場に車を止め、トイレを済ませて出発の準備をする。とても良い天気恵まれ、風も無く準備をしても寒さを感じない。皆さんも「今日は暖かくて良かった」とニコニコ顔で準備する。ストレッチを済ませたら出発し、温泉旅館の間を抜けて登山口に着く。いつもはここでスノーシューを付けるが、去年雪が少なく土が露出した箇所が多かったのでツボ足で登って行く。ところが途中の急斜面が凍っていて、靴が滑り登れなく急遽スノーシューを付ける。金精道まで登り切ったら夏道を行かず、蓼ノ湖に向かって雪の急斜面を下って行く。積雪はスノーシューハイクに十分過ぎるほどあり、トレースもはっきりつけられてとても歩き易い。蓼ノ湖の西側を廻るように入り、北側の平坦な場所で休憩を取る。静寂で神秘的な雰囲気心癒され、冬しか入れない特別の光景が見られる。衣服調整と水分補給を行ったら小峠に向かう。ミズナラや

榎の大木の間を縫うように入り、しばらくすると急坂を登るようになる。



本日のコース一番の難所で、振り返ると皆さん悪戦苦闘していた。なんとか小峠まで登り切り、小休



止して疲れた足を休める。風も無く真っ青な空が広がり、上着を脱いでシャツでも陽射しが暖かい。小峠からも夏道は行かず、谷沿いに下って行く。前日に大勢が歩いたようで、はっきりとトレースが付けられている。少し下ると広く平坦な場所に出て、雪原を自由に歩ける。やがて柵やシラビソの薄暗い谷を下るようになり、急な段差が続く慎重に下る。傾斜が緩くなり、前方が開けると刈込湖の湖畔に飛び出る。凍った湖面まで下りて記念写真を撮り、湖畔の木に腰かけ雪景色を楽しみながらデコポンや菓子进行いただく。湖の周囲を見渡すと、湖畔を周遊するトレースが見えた。皆さんに「今日は最高の天気だから、湖畔を一周しますか？」と聞くと、全員がウン行きたいですとの返事。ザックをデポし刈込湖一周に出かける。トレースはあるがあまり歩かれて無くて、フワフワ雪に足を取られるが皆さん楽しそう。南岸は山陰で少し寒かったが、北岸は陽射しを受けてシャツでも汗をかいた。ザックをデポした場所まで戻り、お湯を沸かしてランチをいただく。カップ麺やスープに、ゴボウの牛肉巻、煮タマゴなど雪景色を見ながら美味しくいただいた。ランチが済んだら下山する。小峠までは順調に戻ったが、ここからの急な下りが大変そう。それでも何とか下り切り、蓼ノ湖で小休止する。最後の金精道まで登り切り、皆さん安堵の顔をしていた。そこで「金精沢コースの入口を確認したいので、行かないですか？」と言うと、「行きたい」との返事。金精峠に向かって道路を登って行く。緩やかな登りだが、距離が有るので皆さん疲れた様子。ようやく下降点に着き、ガードレールをまたいで石楠花平コースに入る。緩やかに下って行くと金精沢コースへ合流し、分岐を左に下って湯元温泉に向かった。やがて温泉街への道路に出て、スノーシューを外して駐車場に戻った。トイレを済ませ、靴を履き替え道具を片付けたら帰路につく。終日好天に恵まれ、充実したスノーシューハイクに皆大満足の日となった。

湖の周囲を見渡すと、湖畔を周遊するトレースが見えた。

皆さんに「今日は最高の天気だから、湖畔を一周しますか？」と聞くと、全員がウン行きたいですとの返事。ザックをデポし刈込湖一周に出かける。トレースはあるがあまり歩かれて無くて、フワフワ

雪に足を取られるが皆さん楽しそう。南岸は山陰で少し寒かったが、北岸は陽射しを受けてシャツでも汗をかいた。ザックをデポした場所まで戻り、お湯を沸かしてランチをいただく。

カップ麺やスープに、ゴボウの牛肉巻、煮タマゴなど雪景色を見ながら美味しくいただいた。ランチが済んだら下山する。小峠までは順調に戻ったが、ここからの急な下りが大変そう。それでも何とか下り切り、蓼ノ湖で小休止する。最後の金精道まで登り切り、皆さん安堵の顔をしていた。そこで「金精沢コースの入口を確認したいので、行かないですか？」と言うと、「行きたい」との返事。金精峠に向かって道路を登って行く。緩やかな登りだが、距離が有るので皆さん疲れた様子。ようやく下降点に着き、ガードレールをまたいで石楠花平コースに入る。緩やかに下って行くと金精沢コースへ合流し、分岐を左に下って湯元温泉に向かった。やがて温泉街への道路に出て、スノーシューを外して駐車場に戻った。トイレを済ませ、靴を履き替え道具を片付けたら帰路につく。終日好天に恵まれ、充実したスノーシューハイクに皆大満足の日となった。



雪に足を取られるが皆さん楽しそう。南岸は山陰で少し寒かったが、北岸は陽射しを受けてシャツでも汗をかいた。ザックをデポした場所まで戻り、お湯を沸かしてランチをいただく。カップ麺やスープに、ゴボウの牛肉巻、煮タマゴなど雪景色を見ながら美味しくいただいた。ランチが済んだら下山する。小峠までは順調に戻ったが、ここからの急な下りが大変そう。それでも何とか下り切り、蓼ノ湖で小休止する。最後の金精道まで登り切り、皆さん安堵の顔をしていた。そこで「金精沢コースの入口を確認したいので、行かないですか？」と言うと、「行きたい」との返事。金精峠に向かって道路を登って行く。緩やかな登りだが、距離が有るので皆さん疲れた様子。ようやく下降点に着き、ガードレールをまたいで石楠花平コースに入る。緩やかに下って行くと金精沢コースへ合流し、分岐を左に下って湯元温泉に向かった。やがて温泉街への道路に出て、スノーシューを外して駐車場に戻った。トイレを済ませ、靴を履き替え道具を片付けたら帰路につく。終日好天に恵まれ、充実したスノーシューハイクに皆大満足の日となった。